

# パパの子育て

## 座談会 子育てを楽しんでいます

中央区では30代、40代を中心とした子育て世帯の転入が増え、子どもの数も増えています。男性が子育てや家事、介護に携わることは、男性自身が仕事と生活の調和のとれた人生を送る上でも女性の活躍推進を図る上でも極めて重要です。特集では、区内在住のパパさんに集まっていたいただき、日ごろの子育てについてお話をいただきました。



### 日ごろの子育て

日ごろ、お子さんごとのように過ごしていますか？

**天野**…子どもは1歳3カ月の娘が一人です。週2日泊まり勤務があつてその日は家に帰れないのですが、翌日はなるべく娘と一緒にいます。子育ては思っていた以上に大変で自分もやれることはやらないという感じです。おむつ替えも抵抗ないですし、家にいるときはお風呂も必ず入れています。休日は児童館や夏はじゃぶじゃぶ池に連れて行ったりします。

**芦沢**…子どもは一人で1歳2カ月の男の子です。僕はいま育児休暇をとりながら大学院に通っています。離乳食やお風呂に入れたり日々妻と一緒にやっています。僕の方が潔癖症なくらいでおむつ替えはいつもやっています。苦手なことは寝かしつけですね。

**篠田**…子どもはもうすぐ5歳になる息子と1歳4カ月になる娘がいます。平日は帰りが遅いので、出勤前に1時間ぐらい遊んだり、上の子を幼稚園に送って行ったりします。下の子は土日は見るよう

にしていますが、基本上的子を担当しています。最初は風呂に入れるのも怖かったですけど、今は僕もある程度のことではあります。

**宮川**…子どもは9カ月の娘が一人です。平日はほとんど深夜帰宅なので、朝、子どもといる時間を作るようにしています。休日は子どもがまだ小さいので男一人では何かあると心配で妻と一緒に行動しています。子育ては一通りできます。料理が趣味なので離乳食の下ごしらえまでを僕がします。最近、寝かしつけのこつを覚えてきました。

楽しいと思う瞬間、感動することは何ですか？

**芦沢**…子どもが何か一つできるよ



天野雄一さん

(日本橋地域在住)

お子さんは1歳3カ月の女の子



**芦沢國正さん**

(京橋地域在住)  
お子さんは1歳2カ月の男の子



うになったときや笑ってくれたりするときですね。パパって言われた瞬間を覚えていません。はいはいをしたとか、歩き始めたとか、そういうタイミングは妻と記録しています。嬉しいですし、感動します。天野・僕も子どもが手をたいたりとか新しいことをやったりするときに喜びを感じます。こちらがしたことについて笑ってくれたり、家に帰ってにこっとしてくれるのがすごく嬉しい。やっとな父親だとわかってくれたのかなという感覚があります。

たという達成感があります。とことん遊ぶことも父親の役割の一つなのかなと思います。宮川・子どもに喜びの表現というのがあって、それを見ると嬉しいし子育てで楽しいなと思います。買い物に行ったときに子どもがいると知らない人とも話ができてというのも楽しいと思いますね。

### 子育てで大変だと思つことは何ですか？

天野・寝かしつけですね。抱っこしているときに寝ていても、おろすとぎゃあと起きてまた振り出しに戻る。最近は何とかなできるようになりましたが、技術的にはまだまだです。

宮川・先日、3時間くらい娘と二人だけになりましたが、一緒にいるだけで辛くなります。泣くわけではないのですが、すべてが初めてのことでどうい変化をすればかわからず一挙手一投足に不安になることがあります。

芦沢・大変さが徐々に変わっていき、最初のころはコミュニケーションがとれなくて僕も3時間一緒にいただけで大変でした。歩き始めるようになってからは動き回るの

で、追いかけるのが大変です。眠い時はママ、ママと言って、二人で留守番しているときも泣きまくると大変です。

篠田・上の子で大変なのは、叱ったりすることですね。突然気が変わったたりするのを怒っても仕方ないし、ほめて伸ばすか叱るか、手を替え品を替えというところが大変だと思っています。

### 父親になって変わったことはありますか？ どんな時に父親を実感しますか？

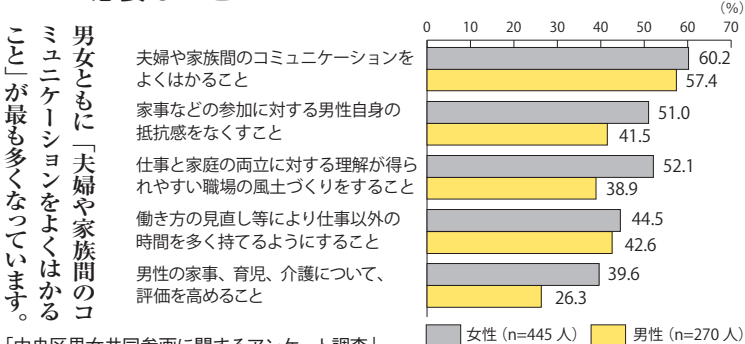
芦沢・職場の同僚や大学の友人に会うと、「父親っぽくなったね」とは言われます。子どもの話をするからかもしれません。生活スタイルも変わりますけど、徐々に自分の中に父親の意識が芽生えて、それが雰囲気として出ているのかもしれないですね。

天野・生活時間が変わりました。最初のころは子どもが3時間おきに起きていたので、僕も夜中に起きなければいけなかった。

篠田・時間の使い方を変えました。1日は24時間しかありませんので、子どもとの時間を大切にするためには、何かの時間を減らすか効率

的に時間を活用するしかありません。飲みに行ったりもしますが、土日は子どもと遊ぶか、子どもと一緒に参加できるイベントに積極的に参加しています。宮川・職場の中でいろいろな方の話題が子育てに変わってきました。子どもを話題にあまり話をしなかった人と話ができたりして、人間関係に一つ幅ができたのかなというのがあります。生活に関する話題が増えてきたことに父親になったことを一番実感します。

**図表 男女がともに家事・育児・介護などに参加するために必要なこと(上位5項目/中央区)**



「中央区男女共同参画に関するアンケート調査」(平成24年度)



宮川和也さん  
(京橋地域在住)  
お子さんは9カ月の女の子



## 仕事と子育て

ワーク・ライフ・バランス  
についてはいかがですか？

芦沢：育児休暇は学業休職と兼ねて取ったので取りやすかったです。上司に恵まれたというのがあります。1年休んで今年の10月に復職です。育児休暇前は深夜まで働いて休みもないほどだったので、復帰してからワーク・ライフ・バランスに気をつけなければと思っています。

天野：自分の場合、会社で決められている出産休暇を取っただけです。あとは有給休暇を使って子どもと接しています。

篠田：育児休暇は、取ったらいい経験だと思いますが取ろうとは思わなかったですね。自分に部下が

できたときに、取りたい人がいたら率先して取らせてあげたいと思いますね。

宮川：会社は女性の育児休暇の取得には積極的ですが、これから時代が進むと男性も取るようになるかもしれませんね。ただ専門職は余剰人員がいないので取りにくいかなと思います。

## 子育てをすることで仕事の仕方が変わりましたか？

篠田：これまで以上に効率的に仕事をできるようにしています。子どもができて仕事量が減るわけではないですし手を抜こうとは思いませんので、子どもの世話をした後や、朝5時に起きて仕事をするなど工夫しています。

芦沢：子育てをすると仕事のスキルが落ちる、仕事を頑張ると子育てがおろそかになるといふように仕事と子育てがトレードオフになるのは嫌ですね。子どもの癒しがある分仕事も頑張れるという、相乗効果で仕事もうまくいくようにしたいですね。

宮川：子どもを持って変わったのは、休みの日に仕事をほとんど意識しなくなったことです。土日を

## 夫婦の協力

最後に、これから子育てを始める方に夫婦の協力について一言お願いします。

完全オフにしてプライベートな1日を確保するようにしています。ただそのために平日は限界まで仕事をしますし、残した仕事はどこまでに終えるか調整します。

天野：仕事の拘束時間が長いのですが、家に仕事を持ち込まなくていいので、家にいるときは子どもへの面倒を見て、仕事のことはい切考えない。今のところは仕事と子育てでは完全に分けられています。

宮川：子育ても一つの仕事かなと思います。妻も子育てで24時間拘束されるので大変だと言っています。妻への気遣いは大事ですね。結婚前一人暮らしをしていて料理も自分でしていました。一人暮らしですらできてきたことの延長線上に子育てで必要な家事があります。

天野：子育ては妻一人では大変なのでできる限りのサポートが必要だと思います。1歳前はお母さんに懐いてばかりでしたが、だんだんと自分にも懐いてきました。今

離乳食から幼児食になる段階なのでその辺も協力しながらやっていきたいです。

芦沢：最初は妻が一人でやれるかなと思っていましたが、子育てはそんなに簡単ではないと実感しています。ずっと子どもと向き合うのは大変なので妻が一人になれる時間を作るようにしています。僕もできる限り子どもと触れて楽しい時間を過ごしたいと思っています。

篠田：自分のやれることが増えないと妻をサポートできる範囲も限られてくるので、やれることは積極的にやり、やれることを増やそうと心がけています。子育ては思っていた以上に大変ですが、前向きに考えて期間限定の子育てを楽しまないともったいないと思っています。



篠田剛志さん  
(月島地域在住)  
お子さんは5歳の男の子と1歳4カ月の女の子



## インタビュー

日本橋パパの会 代表 かのこぎみちのり 鹿子木亨紀さん

# 地域にパパ友を持つ

インタビューでは、地域にパパ友を求めて「日本橋パパの会」を結成した鹿子木亨紀さんに、パパの会結成の経緯や活動内容、子どもを通して地域でつながることの大切さなどについてお話を伺いました。

### 近所にパパ友がほしい

2009年、長男が誕生する直前に人形町に転居してきました。近所にパパ友がほしくて保育園の掲示板に「飲み会」の貼り紙をしたところ、10人集まりました。「第1回パパの会」です。ほぼ初対面同士でしたが、近所に住む小さい子どもを持つ父親ということで話題は尽きず、盛り上がりました。おむつのことから病気、小児科のこと、子ども以外のことでもおいしいお店の情報等々。しかも終電を気にする必要がありません。

メンバーを増やそうとほかの保育園に声をかけたりHP等を作ったところ、今、設立から4年近く経ちますが会員は130人になりました。

活動内容は、飲み会だけではママたちから評判が悪いので、イベントもするようになりました。遠足やバーベキューはママも参加できますし、パパと子どもで来ればその間ママは自由時間になります。また、ほかの家族と一緒になので、子どもは友達と遊べて楽しいし、パパも弁当を広げながらビールを飲んだりして楽しめます。

メーリングリストを使って子育てに関する情報交換をすることもあります。



### 仕事と子育て

父親の子育ての悩みで一番多いのは、平日忙しいパパが週末子どもと遊ぼうとしてもうまくいかないことです。結局子どももママと過ごしたがって、パパは子どもとどう過ごしていいかわからない。パパの会も解決策があるわけではないですが、ほかのパパが子どもとどう接しているかを見るだけで参考に



なると思います。

自分の場合、子どもが生まれる前から子育てを楽しみたいと思っていましたが、生まれてみると意外と子育てが大変で妻だけに任せずできるだけ早く家に帰ろうと思いました。意識して子どもとの時間を多く取るようにしています。

### 地域とつながる大切さ

会員が130人も集まったのは、地域に友達がいることのよさだと思います。小さい子がいるとどうしても仕事と家庭の往復だけになりますが、そこに地域という第3の居場所があるのは嬉しいことです。

子育てが地域とつながることは、子どもの成長にもプラスです。多くは核家族なので子どもが接する大人は親と保育園だけになりがちですが、親が地域の人と交流することで子どももいろいろな大人と接しながら成長できます。また、地域の大人が子どもの顔を覚えてくれるのは防犯という意味でも心強いです。

日本橋は歴史と伝統があって古くから住んでいる人たちが地域の縁を大事にしています。ベビーカーを押しながら歩いていると近所のおじいちゃんおばあちゃんが声をかけてくれます。子育て世帯はマンション住まいが大半で近所付き合いが希薄になりがちですが、パパの会が地域活動の第一歩になったらいいと思います。子どもが成長していく地域とのつながりを大切にしたいと思います。

